

# 地域レベルでの漁況海況情報の提供事業－ I 漁海況予報関連調査

久野正博・山田浩且・山川 卓・清水康弘

## 目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、その結果に基づいて漁海況予報を行うとともに、漁海況情報を迅速に関係業者に通報して漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

## 方法

熊野灘および伊勢湾に設定した定点（図1）において、毎月1回の海況調査を調査船「あさま丸」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週1回発行した。

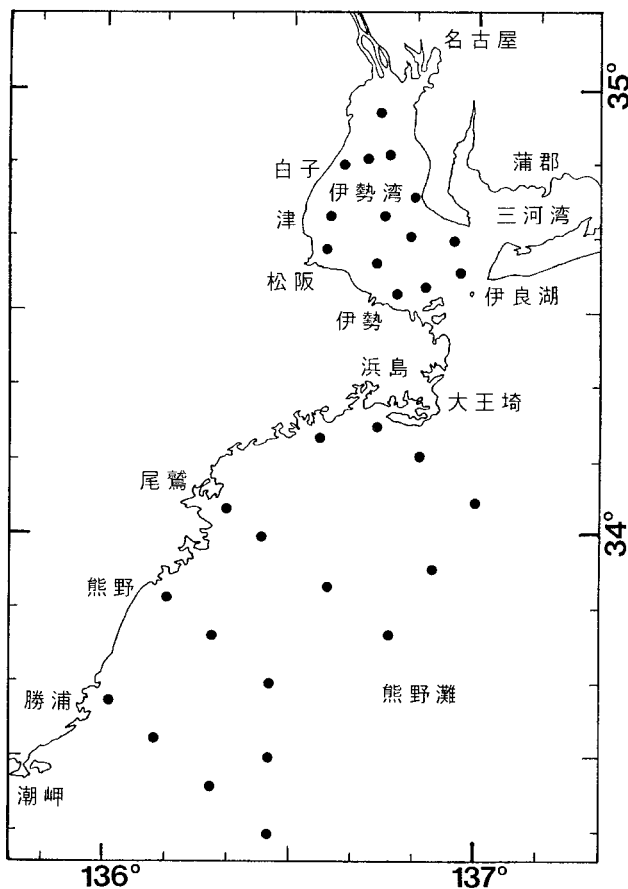


図1 熊野灘および伊勢湾の定線観測点

## 結果の概要

詳細については平成12年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告するので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告する。

### 1. 平成12年度の黒潮流路は、規模の大きなC型基調（一時的にB型）で経過した。

黒潮は4月前半、5月頃、12月頃に一時的にB型となった他はC型で経過し、N型流路は出現しなかった。年度を通じてN型が出現しなかったのは、平成2年度以来のことである。6月から11月まで約半年間C型流路が続いたが、安定したC型が持続したわけではなく、流路変化は比較的大きかった。C型の時期にも蛇行北上部がS字状になって、伊豆諸島域に黒潮がかかることも多かった。

九州南東沖における黒潮小蛇行の形成は、3月上旬、4月上旬、5月中旬、6月中旬、9月中旬、10月中旬、12月下旬頃に見られ、それぞれ短期間（1～2ヶ月）で潮岬を通過した。これらの小蛇行とは別に、黒潮北縁冷水渦の通過による離岸現象が数多く見られた。このため、潮岬沖の黒潮は年度を通して離岸傾向（やや離岸～離岸）で経過した。潮岬に黒潮が接岸したのは、5月末～6月上旬、8月上旬～9月上旬、12月上旬～12月下旬頃で、その他の時期は蛇行北上部が潮岬を通過する前後に一時的に接岸した程度であった。

### 2. 熊野灘沿岸の水温（表1、図2）は、平年並み～高め基調で経過し、冬季を中心に一時的に高水温傾向が顕著になった。

熊野灘では前年度秋季から黒潮蛇行に伴う暖水波及の影響で高水温傾向が持続し、3月にかけては高水温が顕著であった。4月以降は暖水波及が弱まる時期もあり、一時的に平年並みとなったが、7月まで高め基調で経過した。5月中旬には大王崎南沖からの暖水波及が強まり、沿岸定線観測において表層で記録的な高水温を観測した。7月以降は極端な高水温は出現せず、平年並み～高め基調で11月まで経過した。11月後半には黒潮小蛇行の通過

に伴う暖水波及が強まり、11月下旬～12月上旬は南からの暖水が熊野灘沿岸に強く流入したため、熊野灘沿岸の広範囲で高水温が顕著になった。年末から流入した黒潮内側反流の一部が年始にかけて切離し、大王埼南東沖に厚みのある暖水渦を形成したため、1月以降は表層だけでなく、100m・200mでも高水温が顕著になった。その後、黒潮小蛇行の通過に伴って10～15日周期で南～南東沖から暖水が流入し、暖水渦が持続した。熊野灘にお

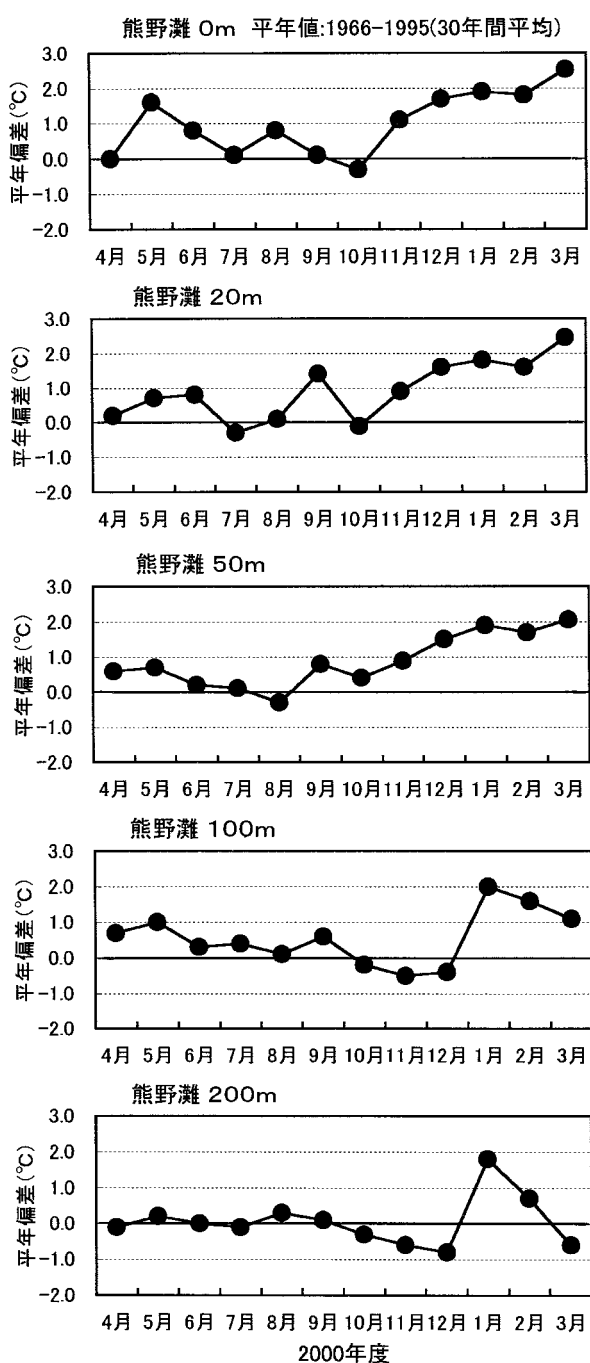


図2 熊野灘沿岸定線全測点平均の年平均偏差

る今冬季の水温は、暖水波及が弱まる時期には降温が進むものの、平年値まで低下する前に次の暖水波及によって再び昇温するパターンが続き、高水温傾向が3月下旬まで持続した。

浜島の定地水温（図3）は、前年の秋季から高水温傾向が持続し、4月以降も平年より1～2℃前後高い状態が6月上旬頃まで続いた。6月中旬には平年並みとなったが、6月下旬は平年より1℃前後高め、7月上旬～中旬は平年より2℃近く高めとなった。7月下旬～9月中旬は平年並み～やや高めで経過し、9月下旬以降は平年を1～2℃上回った状態が12月まで持続した。1月上旬は平年値近くまで水温低下したが、1月中旬以降は再び高水温傾向となり、平年より1～2℃以上高めとなった。特に2月下旬と3月下旬には、平年を3～4℃も上回る記録的な高水温を観測した。

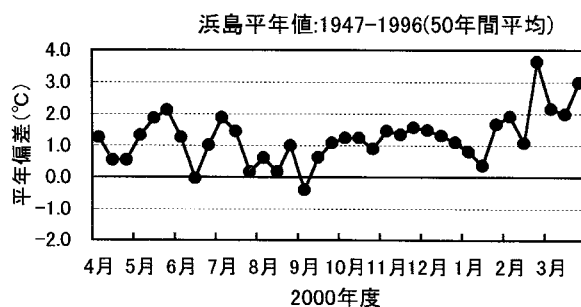


図3 浜島の旬別定地水温の年平均偏差

3. 伊勢湾の水温（表2，図4）は、全層ではほぼ類似した変動を示した。4月は平年並、5～6月は平年並～やや低め、7～11月は平年並～やや高め、12～1月はやや低め、2～3月は平年並～やや高めで経過した。前年度のような顕著な高水温（平成11年8月、10月）、低水温（平成11年12月）現象は認められず、年間を通じておおむね平年値に近い水温で推移した。9月の東海豪雨の影響により、同月の表面では記録的な低塩分を観測した。底層域における貧酸素水塊の分布は7月から顕著となり、その後10月観測時まで認められた。ただし、この間、貧酸素水塊の分布は底層付近の薄い層に限られ、その規模は比較的小さく、大きな漁業被害をもたらすことはなかった。

白子の定地水温（図5）は、年間を通じおおむね高め基調で経過した。

表1 沿岸定線全測点平均水温・塩分

月	水 温					塩 分				
	0m	20m	50m	100m	200m	0m	20m	50m	100m	200m
4	17.3	17.1	16.7	15.6	12.2	34.66	34.73	34.72	34.68	34.45
5	20.8	19.2	17.7	16.2	12.4	34.51	34.61	34.66	34.66	34.47
6	22.2	20.9	18.0	15.6	12.1	34.32	34.43	34.59	34.61	34.45
7	24.7	21.6	18.3	15.6	11.7	33.11	34.10	34.55	34.60	34.44
8	27.3	23.3	18.1	15.1	11.6	33.81	34.15	34.56	34.58	34.43
9	26.5	26.1	20.6	16.1	11.7	33.82	33.94	34.39	34.57	34.43
10	23.2	23.3	22.6	17.1	12.1	33.55	33.83	34.13	34.62	34.44
11	22.5	22.5	22.1	17.5	12.0	33.73	33.81	33.98	34.60	34.44
12	20.9	20.9	20.5	16.6	11.7	34.32	34.33	34.34	34.59	34.42
1	18.3	18.3	18.2	17.7	14.6	34.62	34.62	34.61	34.60	34.57
2	17.5	17.4	17.2	16.6	13.6	34.53	34.62	34.61	34.59	34.50
3	18.1	18.0	17.3	15.7	11.7	34.66	34.66	34.63	34.58	34.42

表2 浅海定線全測点平均水温・塩分・D O

月	水 温			塩 分			D O		
	0m	10m	B-1m	0m	10m	B-1m	0m	10m	B-1m
4	13.1	12.6	12.5	30.70	32.16	33.09	9.1	7.9	6.5
5	17.8	15.2	14.1	29.96	32.06	33.07	10.9	7.5	5.4
6	20.4	18.0	16.1	28.73	31.96	33.23	7.1	5.8	3.9
7	25.5	21.6	19.3	27.93	32.04	32.91	8.3	4.5	2.5
8	27.6	23.9	20.8	27.98	31.82	32.96	7.5	5.2	2.9
9	26.1	25.7	23.7	21.00	31.10	32.86	10.7	4.9	2.1
10	22.1	22.5	22.9	29.94	31.03	32.43	9.4	7.5	4.8
11	19.1	19.6	20.5	30.48	31.08	32.40	7.9	6.9	5.2
12	13.9	14.1	14.7	31.54	32.78	32.28	8.4	8.0	7.5
1	9.4	9.7	10.3	31.89	32.36	32.67	9.0	8.7	8.3
2	8.7	9.4	10.4	31.26	32.06	32.73	11.0	9.4	8.4
3	9.5	9.6	10.2	31.13	32.12	32.56	9.9	9.1	8.5

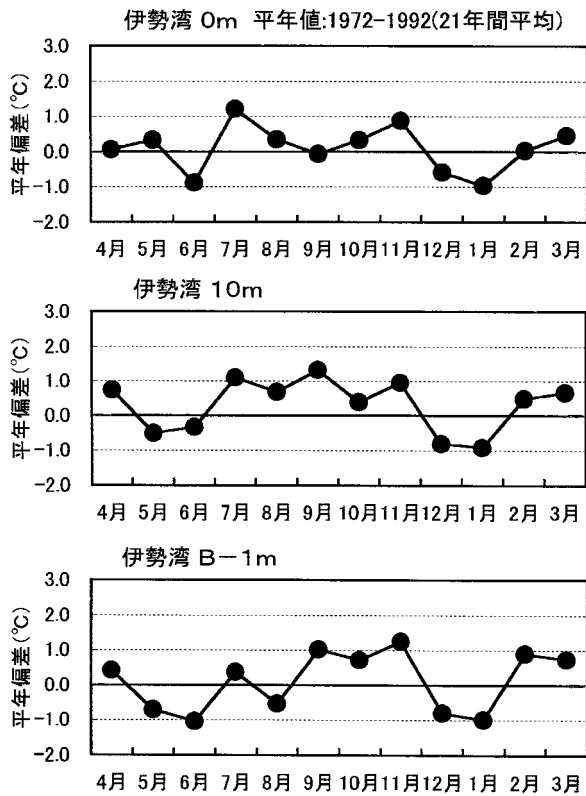


図4 伊勢湾浅海定線全測点平均の平年偏差

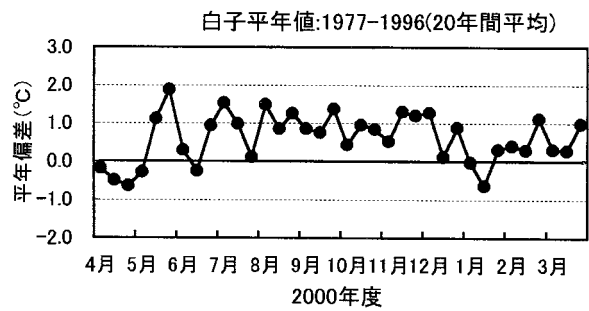


図5 白子の旬別定地水温の平年偏差

関連報文

三重県(2001):平成12年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集).